

「関西大学」

学長コラム「芝井の目」の先に見えるもの

今中 明佳 ● 関西大学学長室学長課

はじめに

本学の学長室ウェブサイトは、大学執行部（学長・副学長・学長補佐の計9名）がリレーコラムを掲載している。執行部リレーコラムは、2007年から、おおよそ月に一度輪番で執筆され、現在に至っている。その内容はウェブサイトおよびFacebookに掲載すると同時に、大学の教職員および学生にもアナウンスを行っている。2018年5月には、執行部リレーコラムに加え、芝井敬司学長による単独のコラム「芝井の目」を新たに設けた。

1 学長コラムの狙い

そもそも学生にとって学長は、授業を担当することも

なく、式典で格調高い式辞を聞くイメージが強く、なかなか縁遠い存在ではないだろうか。

大規模大学である本学の構成員にとっても、「リーダー（学長）が何を考えているか、何を求めているか」が教職員に詳細に伝わらず、歯がゆい思いをすることが少なからずある。そのような中で教職員のみならず、受験生や在学生を含むさまざまなステークホルダーに対して、学長が、「いま、何を」考えているかを表明し、発信することは大きな意味があるのではないか。このような観点から生まれたのが「芝井の目」である。

「芝井の目」には、コラムという形式で発信することによって、身近に感じてもらいやすい工夫がなされている。それにより、「いま」の「学長」が見ていることや考えていることに「触れる」機会を生みだせるのではないかと願いが込められている。

2 時に厳しく、時にユーモアを交えて

「芝井の目」は、学長の「目線」から、高等教育政策の中で見えてくるモノ・コトについて、時に厳しく切り込むこともあれば、時にユーモアを交え、喋り口調の関西



弁をも織り込みながら、まるで学長が読み手の目の前で語り語っている状況をつくり出すこともある。

例えば、「共通テストの迷走について」（2020年1月30日）では、公人として、迷走する大学業界の現状や課題を客観的に分析し、今後の進むべき道を説いている。

一方、フィギュアスケーター高橋大輔さんの電撃復帰を祝した「大ちゃん Daisuki」（2018年12月6日）

や、卒業式の学長の送辞に涙した女子学生に対して綴った「卒業生のあなたへ」（2018年6月11日）では、コラムの読み手は学長が目の前で語っている世界にいても簡単に引き込まれていくだろう。これら学長の幅広い話題に触れる中で、読み手は「芝井の目」を通じて学長の見ていることや感じていること、

その考えに自然に共感することになる。

「芝井の目」がつくり出す読み手との距離感や世界観こそが大きな魅力であると考えたい。

3 読み手へのダイレクトメッセージ

一般的に、組織におけるリーダーの言葉は、プラスに働くことはいまでもないが、時にマイナスに働くリスクも持っている。だからといって、発信しない限り、そもそも読み手の心の機微に触れることはない。

リーダーの意思や意見を認識し、理解することが、組織における意思疎通の一つのツールとなり、判断につながることを考えると、発信者としては、トップマネジメント機能を有効に生かすために、発信した内容が認知された後、どのように生かされていくかまで見据えておかなければならない。

ただ、「芝井の目」ではそこまで難しいことは考えず、まずは読み手の心にダイレクトにメッセージを届けることを最優先に考えて発信している。

情報があふれる中、学長の視線の先にあるものを時に大胆に、時に楽しく届け続けることができるよう、今後とも発信手段を模索したいと思っている。

【共立女子大学】

「学長ブログ」で広げる 大学のファン開拓の可能性

川久保 清 ● 共立女子大学・共立女子短期大学 学長

1 開設の趣旨

共立女子大学が公式ホームページ上に「学長ブログ」を開設して、間もなく丸3年を迎える。

前学長・入江和生先生の在職中に、職員から「学長が自分の言葉で発信するブログを通して、共立女子大学に親しみを持っていただける方（ファン）を増やしたい」という声が上がり、2017年6月にスタートした企画であり、初年度は14本を掲載した。

本学は教員と学生との距離が近く、きめ細かな教育が学生の高い満足度（2018年度のアンケートでは卒業時満足度が97%）に繋がっている。前学長の試みも、真摯かつ親身なアプローチにより成果を得たものといえる。

現在、私がそれを引き継ぎ、タイトルを「学長ブログ

「学長のつぶやき」として3年目を迎え、年間20本程度を掲載している。

2 更新状況

記事の掲載数はひと月に1〜2本を目安としており、①原稿執筆・写真撮影 ②ホームページ管轄担当職員へメールで送付 ③テストページ作成・校正 ④確認後に掲載・公開 という手順を取っている。

公開にあわせてホームページのニュース欄や本学公式Facebookページ、Twitterなどのソーシャルメディアで学外へ向けた発信を行う。一方、学内の学生向け教学ポータルシステムや教職員用グループウェアでも更新情報を発信・共有して学内広報を行い、さまざまなステークホルダーへ向けた情報発信に努めている。

3 内容と反響

記事の内容は、大学としてのアカデミックな題材をはじめ、本学が推進している地域連携・産学連携等や私自身の気づきに基づく題材まで、多岐にわたる。中でも、本学の神田一ツ橋キャンパスが所在する東京都千代田区

神保町の周辺地域の特長を紹介する「神保町は何の街」シリーズが回を重ねて大きな反響を得ているほか、私の専門を生かした健康に関する記事や、私が強い愛着を持っている映画・時代劇に関する記事など、硬軟織り交ぜた内容が好評を博していると聞き及んでいる。

直近の1年間の閲覧数は記事1本につき800前後と一定数あり、平均滞在時間は約2分30秒と、じっくり読んでいただいているようであり、うれしい限りである。

また、手前味噌ではあるが、本学の広報担当部署では、「学長の温かな眼差しのもと、さりげなくも鮮やかな筆致でお届けするブログです」「共立の日々を彩るあれこれや周辺地域に関する内容から、教育の原点や生きる上でのヒントにも触れられる内容まで、さまざまな記事をお届けします」といった表現で当ブログを紹介している。

4 執筆時に心がけていることや工夫

記事の執筆に当たっては、できるだけ読みやすい表現とすることや、リズム感も意識しながら取り組んでいる。

最近では、過去記事のストックが増えてきたこともあって、最新の記事で過去の記事に言及し、リンクで案内するなどの工夫により、一つの記事をきっかけとして興味やイ

メージなどの広がり期待できる環境も整ってきた。

また、記事

に親しみや彩りをプラスする工夫として、私自身が撮影した写真を使用するとともに、職員が描いた私の似顔絵のイラストを組み合わせて記事に添えるスタイルも定着してきている。

5 今後の展望

現在は個人レベルでも手軽に情報を発信できるさまざまなメディアが生まれ、大学からの情報発信のあり方を考える上でも、それぞれの特性を生かせるよう、吟味しながら採り入れている状況にある。ホームページを通した「学長ブログ」の発信もその一つといえる。幾つもの試みを重ねつつ、読者の中から少しずつでも本学に共感や関心を持ってファンとなってくれる方が増えることを期待しながら、今日もまた学内外の多様な出来事をつつかりと見据え、向き合い、新しい気づきを記そうとつぶやく学長なのであった。

